



No. 3 June 16, 2009

日本学術会議協力学術研究団体認可記念号

目次

巻頭言  
田中 保.....1  
 <研究ノート>  
 気になる、古い、変な映画 その①——『スタン・ザ・  
 フラッシャー』: エロスとタナトスの交わる場所  
 清水純子.....2  
 Representation of an Unhappy Woman: Justin Chadwick's  
*The Other Boleyn Girl*  
 Noboru Fukusima.....5  
 <研究コラム>  
 ラテンアメリカ文学をネットを通して覗く  
 川口淑子.....6  
 <研究ノート>  
 ジョージ・エリオットとアントニー・トロロプ  
 大野 直美.....8  
 <翻訳報告>  
*A Pair of Blue Eyes* (『蒼い秘めごと』) 翻訳を終えて  
 朝川真紀.....9  
 <授業実践報告>  
 授業に臨む心構え—現場からの実践報告  
 水野晶子.....9  
 <研究ノート>  
 英語学習に適した「コンピュータゲーム」  
 熊沢和明.....10  
 <学会報告>  
 日本英語文化学会第 114・113・112 回月例会報告  
 岸山 睦.....15  
 日本英語文化学会 第 11 回全国大会報告  
 中井延美.....15  
 新入会員紹介.....16  
 編集後記.....16  
 掲示板.....16

巻頭言

日本英語文化学会会長

田中 保

日本英語文化学会会員の皆様には、我われの研究団体が昨年7月に「日本学術会議協力学術研究団体」の称号（府中学第1055号、平成20年7月24日付け）を受けたことをすでにご存知かと思いますが、ここに新たに皆様にご報告し、会員一同喜びをわかちあいたいと思います。

1, 2年前に入会された会員の方も多くいますので本学会の今日に至るまでの経緯をごく簡単に述べさせていただきます。前身は、1972年4月に10人程度で始められた「上毛英米文学会」と称する研究会です。この会は1975年4月に「ビビュロス同人会」と改組され、さらに1992年7月に「ビビュロス研究会」と名称変更されました。初代会長に生駒幸運氏（故人）が就任され、その後石川祐平氏（故人）、現在顧問の任にあります高山信雄氏、中島時哉氏（故人）が会長として手腕を振るわれ、年を追って会員数も増え、研究発表も多分野にわたり、熱意のある研究会になってまいりました。

石川祐平氏が会長であられた1990年に、研究会誌『ビビュロス』第10号の発刊記念として、執筆者38名からなる研究論文集『英米文学と言語—新しい研究の地平を求めて—』（ホメロス社）が出版されました。この出版を契機に、研究会誌名を『英米文学と言語』と新たにし、その後1998年4月1日に「ビビュロス研究会」を「日本英語文化学会」と改名し、1999年には『英米文学と言語』の記念論文集として『異文化の諸相』（朝日出版社）を31名の執筆者によって世に送り出したのです。

今日に至るまで、実に36年以上の地道な研究活動が認められ、協力学術研究団体に指定されましたことに際し、会員の皆様と「設立趣意書」の準備をし、申請して頂いた福島昇氏に心から感謝申し上げます。

個々の会員、特に若い会員諸氏におかれましては、学術研究団体の会員であることを心に銘記され、本学会の研究活動の推進力になって下さい。積極的に月例会や大会等で研究発表をされたり、「会報」や機関誌『異文化の諸相』に揮って原稿を応募して下さい。

昨年9月、明海大学浦安キャンパスで開催され

ました第11回全国大会は、中井延美大会運営委員長を中心に会場校の岩下哲典先生、事務局の方々、運営委員の方々のご協力をいただき、無事成功裡に終わりましたことをここに厚く御礼申し上げます。

第12回全国大会は、来る9月5日(土)、法政大学市ヶ谷キャンパスで開催させていただくことになりました。法政大学で奇しくも11年前の1998年9月5日(土)に第1回全国大会を開催させていただいておりますので、大所帯になった本学会が里帰りするような気持ちで感無量です。法政大学で現在GIS学部の学部長の重職にあります渡辺宥泰氏が、ご多忙の中を大会運営委員長として陣頭指揮を執っていただくことになりました。大学事務局のご支援を得て、渡辺氏を中心に中井延美大会副委員長、大会運営委員の諸氏が一丸となって、より活発な熱意溢れる充実した大会にしたいと願っております。

大会発表希望者は、発表タイトルを7月1日(水)までに、官製ハガキにて岸山睦氏宛(〒206-0822 稲城市坂浜120-7)にお知らせ下さい。(希望者多数の場合は役員会で発表者を決定させていただきますので予めご了承下さい。)

「会報」、『異文化の諸相』は、それぞれの奥付にある投稿規定に則って投稿して下さい。『異文化の諸相』の次号(30号)より、英文のシノプシス(synopsis)、300語程度を添付することになりました。原稿の採否は編集委員会の決定を尊重し、その決定に従って下さい。

『異文化の諸相』の英語表記は *Studies in International English Culture* です。業績欄などに記入する折にご使用下さい。

また、本学会編『北米文化教養事典』の進捗状況をお知らせしますと、目下アメリカ関係2校原稿の校正中です。編集委員の皆様も本務校の校務に追われ、編集委員が一同に会することが難しく原稿を各自に郵送し、校正していただいておりますが、思うように進んでおりません。この夏季休暇を利用して作業を早める所存です。ご寄稿いただいた会員諸氏には延び延びになって誠に申し訳ありません。もう少しお待ち下さい。

本学会の年会費の件ですが、今年(2009年)度より、一般会員が入会金1,000円、年会費5,000円となりました。学部、大学院修士課程の学生は入会金1,000円、年会費2,000円、博士課程(及び博士課程後期)の学生は一般会員と同じです。こ

れからは「会報」の郵送時に郵便振替用紙を同封いたしますので、郵便振替で年会費を納入して下さい。

① 郵便振替の場合

振込先：日本英語文化学会  
口座記号番号：0160-5-593023

② みずほ銀行より振込みの場合

振込先：日本英語文化学会  
みずほ銀行駒沢支店  
支店番号：151 普通口座 口座番号：  
2032563

**(注意)：今まで口座がありました「みずほ銀行世田谷支店」は6月末で解約いたします。**

研究発表会も今年の6月例会で第114回となりますが、回を重ねる度に、徐々に時間を掛けた、深い思考力から考察された研究発表がなされており、会員も129名を数え、さらなる学会の発展を楽しみにして挨拶とさせていただきます。

<研究ノート>

気になる、古い、変な映画 その①——

『スタン・ザ・フラッシャー』: エロスとタナトスの交わる場所

清水純子

『スタン・ザ・フラッシャー』(*Stan the Flasher*, 1989年)をヤフー・オークションにて500円で落札した。人気のない、埋もれた商品にありがちな競争なしの楽勝である。サブ・タイトルは「露出狂とロリータ」、しかし「セルジュ・ゲンスブールの遺作」という説明書きから、単なるポルノ映画でないことを見破っての購入であった。

「フラッシャー」は「露出狂」を意味する英語の俗語である。フランス映画なのにタイトルが英語になっているのは、主人公の中年男のスタン(クロード・ベリ)が英語関係者だからかもしれない。売れない映画シナリオ・ライターのスタンは、英語の家庭教師をして生計を立てている。

監督、脚本、台詞、音楽を担当したゲンスブールは、自画像と見えるスタンの英語教師のシチュエーションを、相反する二種類の欲望、タナトス(死の欲望)とエロス、の交差点として巧みに利用する。スタンに潜在するタナトスは、英語テキストの選択に表われている。スタンの教材は、いつも決まって『ハムレット』であり、「生きるべき

か、死ぬべきか、それが問題だ」(“To be or not to be. That is the question”)とスタンも教えるも決まり文句のように繰り返す。それに対して、スタンのエロス、つまり生に向かう欲望は、第2学級(15,6歳)のリセエヌのナターシャ(エロディ・ブシェーズ)に向けて発散される。オープニング・タイトルの、白いブラウスに白いソックスをはいた、無垢で可憐なりセエヌたちがかたまって座る姿は、露出狂である狼スタンに狙われていることを知らない無防備な羊の群れを思わせる。この子羊の群れの最前列に陣取る、黒髪の際立って可憐な美少女がナターシャである。

だがスタンは中古の狼であり、「露出狂」は子羊に対して威嚇し、威厳を示すための遠吠えの作用でしかない。しかも「露出狂スタン」——女子学生の群れの前でトレンチ・コートの前をはだけ、裸の下半身を露出する——はスタンの妄想の産物でしかなく、実行にうつすことはない。スタンは、教えを受けにやってきたナターシャの髪の毛を人形のそれのようにかきあげてやり、ついでにふくらみ出した胸にも触り、「エロじじい」とナターシャに拒絶される。かつての美少女であり、スタンの「さおに釣られて」家に取り込まれた妻オーロール(オーロール・クレマン)にスタンはもはや欲情しない。「やりすぎてうんざりしてしまったため？」妻の中で萎えてしまった失態以来、妻と関わることを避けているのだ。「吠えても咬みつかない」狼であり、男性機能を失いかけているスタンにとって、ナターシャを筆頭とする女子学生の前での露出という夢想は、永遠に青年でありたいという男のロマンであり、老いへの反逆を象徴するのみだ。

禿げあがった頭、せり出した腹、たるんだ肉に黒いたわしのような体毛を密生させたスタンは、古い薄汚い毛布のようである。女は誰もスタンにくるまれて寝たくはない。廃棄処分されるべき物体であり、老いた腐臭を発するけだもののスタンだが、ナターシャはスタンを嫌っているのかというところでもない。ナターシャはスタンの写真を盗んで隠し持っている——妹に「好きなの？ 見れば見るほど不細工ね。あたしはジェームズ・ディーンの方がいいわ」と言われ、「ディーンは死んだ人よ」と言い返すと、「スタンだって同じよ、幽霊みたいなもの」と言われ、黙ってしまうナターシャである。

スタンのエロスであり生の欲望の根源であるナ

ターシャへの執着を断ち切らせたのは、ナターシャの父親(ダニエル・デュヴァル)である。スタンの行為に激怒した父親は、内診によってナターシャが生娘であることを確認したうえでスタンを刑務所に放りこむ。ナターシャの父親は、がっちり型の毛深い無骨な下層労働者タイプで、どこことなくスタンに似ている。こんな醜い男からよくもナターシャのようなかわいい娘が生まれたものだととまどうが、よく見ると濃い眉毛やこわい黒髪がナターシャに引き継がれていることがわかり、奇妙に納得せざるをえない。ナターシャも年をとると、父親のように、つまりスタンのようになるのか、と若さと美のはかなさを連想させるところもなかなかにくい。

スタンは孤独に悩む男である。彼は苦悩を打ち明ける相手も理解してくれる同胞も持たない。スタンの気持ちを受けとめてくれるのは犬である。スタンは自分の顔にどこことなく似ている一匹の犬に向かって、「ロリータたちは遅いな。ナターシャが来たらじゃれついてやろうぜ。俺たちは同類だからな」と親しげに話しかける。犬はわかったのか、わからないのか、「クーン」と泣いて小首をかしげる。一方、スタンを告白相手に選んだのは、監獄の同室のゲイの年寄りの剃刀魔である。自分の情夫を剃刀で切り裂いた罪で終身刑になった老齢のおかまは、若い頃の艶っぽい情事をスタンに向かって延々と独白する。

スタンは留置所に面会にやってきた妻に、シナリオ・ライターとしての才能の欠如を指摘され、檻の鉄格子につかまって「俺はMGMのライオンだ」と、破れかぶれの遠吠えをする。愛想をつかした妻は、スタンの出所を待たずに別離を宣言する。帰宅したスタンは一人バス・ルームで全裸で便器に腰かけ、野生を呼び戻す呪文のようにナターシャの名を唱えながら、自慰にふける。女子学生の前でトレンチ・コートを鳥の翼のようにパタパタと音を立てて前をはだけ、一糸まとわぬ体を露出するスタンの姿が、現実とも夢想ともつかないまま映し出される。スタンの姿を顔色一つ変えず、見たとも見ていないととれるナターシャの顔が大写しになる。幼いナターシャの顔は、スタンの居間の若い日の妻オーロールの美しい写真の顔と重なる。この時、ナターシャは若い日のオーロールの幻影だったのか、という疑いが観客の脳裏を一瞬横切る。

エロスの欲望を屈折した形で遂げた後のスタン

は、死の欲望タナトスの誘惑にかられ、ピストルの引き金を引き、「スタン・ザ・フラッシャー」の名にふさわしく、露出狂の衣装、つまり靴とコート以外は全裸で居間に横たわる。映画全体の照明が暗く、巧みなカメラ・ワークのために、スタンの肉体の細部ははっきり見えないので、観客も助かっている。猥褻で不快な表現はゲンスブールの目指すところではないからだ。

どこからともなく、プレスレットをはめた美しい女の手が現われる。女は銃を握りしめたまま硬直しているスタンの手から銃をはずして、スタンの指に自分の指をからませ、しっかりとやさしくスタンの手を握る。手の持ち主の女の顔は最後まで画面に現れないが、観客にはスタンの妻であることが推察できる。ゲンスブールの作曲による、ひたむきな情熱をこめた、やさしい美しい音楽が、この中年男のみじめな死のショックを和らげ、温かく見守る雰囲気盛り上げる。スタンの手としっかりと重ね合わされた手の持ち主であるところの女の顔を露わにしない演出が、女という生き物の異性である男への慈しみを象徴的に表現しているようにも解釈できる。

『スタン・ザ・フラッシャー』は天才アーティスト、ゲンスブールが監督をつとめた最後の作品である。映画の完成後ほどなくして、ゲンスブール自身が原因不明の死を遂げたことを知る観客は、顔の見えない女にしっかりと受け止めてもらえたスタンの最後の姿に感慨を新たにすることだろう。この手の持ち主の女は妻であろう、しかし母であるかもしれないし、一人前の女性に成長した後のナターシャの手かもしれない。夢想家であったゆえに現実の世界では浮かばれない男、負け犬にならざるをえなかったスタンの生きざまを支え、意味を見出し、肯定してくれる、最強の味方としての理解ある女の手、芸術の女神の手だったかもしれない。

創作する者にとって、タナトスとエロスの交わるころは、創作活動の結実した芸術作品そのものにある。アートはタナトスとエロスの交差するところで、両者の危うい関係がうまくバランスをとれた時に誕生する。妻にエロスを見いだせなくなったスタンにとって、ナターシャは必要不可欠なミューズだった。モラルに背いていようと、常識的に見て不釣り合いな恋愛であろうと、芸術家スタンはエロスの女神の化身であるナターシャを必要とした。スタンはナターシャの若さと美しさ

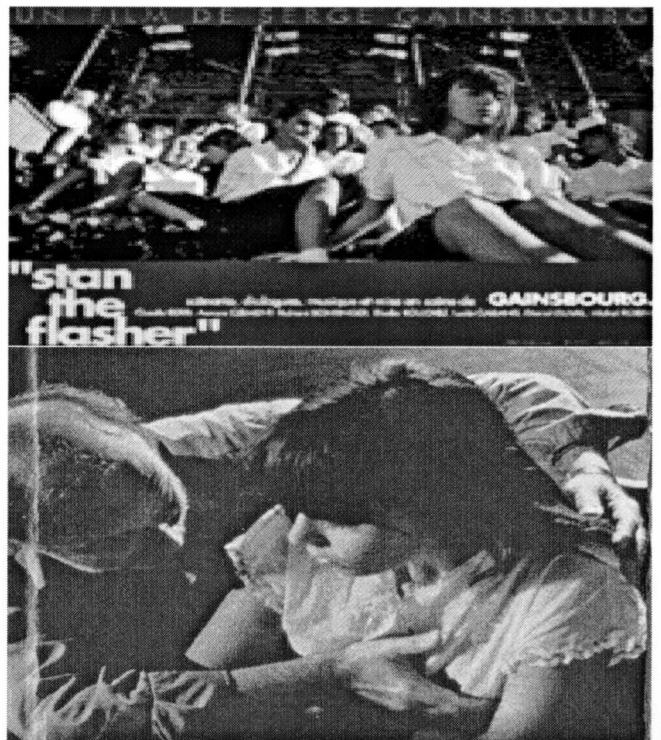
を燃料にして、死の影を振り払って、高揚した生のうちに創作活動を続けたかったのだ。

スタンが露出狂であるのは、芸術家としての性である。創作を生業にするものは、自分を偽らず、人に見せたくない、自分も見たくない暗部、恥部を凝視し、受けとめ、自分なりに変形して、その成果としての作品を他人に向かって露出する作業を避けては通れない。ゲンスブールはエロスとタナトスの危ういバランスの上に成り立つ芸術家としての宿命、芸術家がたどる末期の姿を『スタン・ザ・フラッシャー』に表現した。

自嘲するかのように「ユダ公、ろくでなし」の分身スタンを描いたゲンスブール！反モラル、反公序良俗的テーマ——「露出狂」と「ロリータ」——を扱っているにもかかわらず、見終わった後の観客の胸には、不思議な爽やかさと温かさが訪れる。惨めでおぞましいスタンの死にざまにもかかわらず、このカタルシスは何によってもたらされるのか。猥雑な現実にもまれて苦しみなながらも、ダイヤモンドのように硬質、透明、純粹無垢な輝きを失うことのなかったゲンスブールの芸術家的感性が、濁っているのに透明、猥雑なのに美しい、不思議な映画『スタン・ザ・フラッシャー』を生み出した。

『スタン・ザ・フラッシャー』は、古い、変な映画だけれど、気になってしかたがない。それはこの映画にこめられたゲンスブールの輝きを失うことのない魔法の魂ゆえである。

(法政大学)



Representation of an Unhappy Woman:  
Justin Chadwick's *The Other Boleyn Girl*

Noboru Fukushima

Justin Chadwick's film *The Other Boleyn Girl* (2008), which is a historical fiction, is based on the novel by Philippa Gregory. This film of the Boleyn sisters' story is Shakespearean in nature because the characters of the film are similar to those of Shakespeare's play *King Henry VIII* (1613), except for Mary Boleyn's role.<sup>1</sup> In the film, you can see Henry Tudor (Eric Bana), Mary Boleyn (Scarlett Johansson), Anne's younger sister, Anne Boleyn (Natalie Portman), Henry's second wife, Katherine of Aragon, Henry's first wife, and Mary (who will become Queen of England and Ireland), Henry VIII's and Katherine's first child. Also you can see Elizabeth, Henry VIII's and Anne's first child, at the end of the film. Both in the film and the play, Katherine is antagonized by Henry VIII.

There are also some differences in the two works. For example, in the play, Mary Boleyn, George Boleyn, Mary's and Anne's elder brother, Sir Thomas Boleyn, their father, Lady Elizabeth Boleyn, their mother, William Carey, Mary's first husband, Henry Percy, Anne's first husband-to-be, William Stafford, Mary's second husband, Thomas Howard, Lady Elizabeth Boleyn's brother, who is dubbed the Duke of Norfolk (in the play), do not enter onto the stage. In the film, Henry is depicted as sexually frustrated, marrying six times, but in the play he is not, marrying only twice. In the film, Anne wants to seize political power, urging Henry to divorce Katherine, but in the play she is not hungry for power, saying, "I swear again, I would not be a queen/For all the world (2.3.45-46). In the film, England turns into a Protestant country, the Church of England being founded as Henry decrees himself a divorce from Katherine, but in the play Shakespeare does not refer to the Church of England. The differences of the two works are much

more conspicuous than their similarities.

Why did Chadwick focus on Anne's and Mary's fortunes? Anne's character is seen by many as strong and standing up to her male counterparts. But in fact this is totally the opposite. Anne is not as tough as she seems, she wishing that she will not be seduced by Henry, who can decide whom of the two sisters will stay at court, be sent to an inn or be executed. Anne is also afraid of her father and her uncle because they can decide the two sisters' fortunes. Anne makes frantic efforts to cope and seeks Henry's protection, beseeching him to divorce Katherine.

Anne, who wants to survive at court, stirs the king to break with the Roman Catholic Church when the Pope refuses to invalidate his marriage to Katherine. Henry gives way to Anne's demands, declaring himself Supreme Head of the Church of England, and divorcing Queen Katherine. The scandal of Anne's clandestine marriage to Henry Percy in the countryside threatens her impending marriage to Henry so that Mary lies on Anne's behalf, assuring the king Anne's union with Henry Percy was not effected.

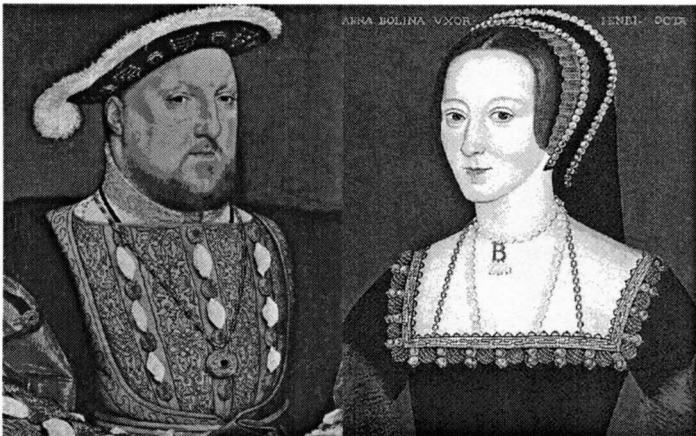
Notwithstanding the success of her plans, Anne's doings drive Henry to his mental breaking point, and he sexually assaults her. A now-pregnant Anne still goes through with the marriage to make her family happy and is appointed the new Queen of England. Anne and Mary suspend their rivalry, Mary staying by her sister's side at court.

Despite the birth of a healthy daughter, Elizabeth, who will be Queen Elizabeth I of England, Henry is miserable with Anne's failure to deliver a son and legitimate male heir to the throne. After she loses her baby boy, a now hysterical Anne asks George Boleyn to make her pregnant. Though he refuses her request, his wife Jane Parker, who is jealous of sister-in-law, Anne, witnesses enough of their encounter to become suspicious. Jane's damning testimony results in the execution of both George and Anne.

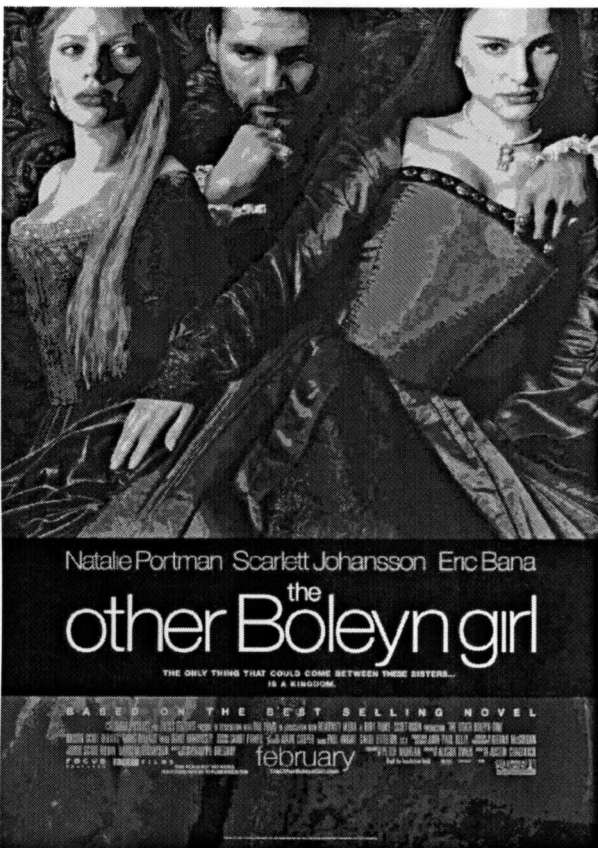
It is unhappy that Sir Thomas Boleyn's and Thomas Howard's scheme to promote and protect Anne's ascension failed, but it is opportune



that Mary and her husband William Stafford can live happily. Also it is benevolent that Elizabeth will reign for 45 years. As Peter L. Rudnytsky, critic, points out in *Shakespeare Survey* 43, in *King Henry VIII*, Shakespeare alludes to the happiness of Henry and Anne, this perhaps being an influence from his Romantic plays. D. J. Heinlein, film commentator, says: “Since the daughter of Anne Boleyn and King Henry VIII is none other than Queen Elizabeth I you would think that the film would end nicely with a shot of a young red-head girl running through an open prairie.”<sup>2</sup>



Henry VIII by Hans Holbein the Younger; Anne Boleyn by unknown artist<sup>3</sup>



Pamphlet of *The Other Boleyn Girl*

## Notes

<sup>1</sup> In 1969, Charles Jarrott put Anne of the Thousand Days on the screen, which was also based on *King Henry VIII*. In 1979, BBC produced *The Famous History of the Life of King Henry the Eighth*.

<sup>2</sup> D. J. Heinlein, “Review: *The Other Boleyn Girl*”, *Matte Havoc* <<http://mattehavoc.blogspot.com/2008/03/review-other-boleyn-girl-2008.html>>.

<sup>3</sup> <[http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Henry\\_VIII\\_and\\_Anne\\_Boleyn.png](http://commons.wikimedia.org/wiki/File:Henry_VIII_and_Anne_Boleyn.png)>. Accessed 1 April 2009.

(Nihon University)

<研究コラム> 「ITと文学、言語、教育」  
ラテンアメリカ文学をネットを通して覗く

川口淑子

文学の研究スタイルは近年、急速に変化しているが、このコラムでは、サンドラ・シスネロスを一例として取り上げながら、研究方法の紹介を試みたい。近年の英文学研究の特徴の一つを挙げるなら、研究対象である作家の国籍の複雑化がある。英語を第二言語とし、英語で作品を書く移民の文学研究も非常に増加している。メキシコ系アメリカ人であるシスネロスはその一例だが、彼女のように現役でマイノリティーである作家についての書籍という形での資料は、古典的作家に比べれば少ない。そのためここでは、特にインターネットを使つてのシスネロスの情報収集を紹介したい。

シスネロスの情報をネット上で得ようとする場合、まずは作家の作品や作品に対する評価、作家個人についての情報が入り口となるだろう。作家の基本情報が確認できるサイトの一つとしては、

[http://en.wikipedia.org/wiki/sandra\\_cisneros](http://en.wikipedia.org/wiki/sandra_cisneros)

が挙げられる。ここでは、伝記的情報のほか、文体について、作品のテーマまで入門者向けの情報がかかり詳しく紹介されており、学生への作家紹介としても適当である。また、伝記的情報に絞込むなら、

<http://www.gradesaucer.com/author/sandra-cisneros>

などがある。あるいは、シスネロスの代表作 *The House on Mango Street* についてについての専門家の解釈をウェブ上で探すと、一例として

Poppleton, Carol A., Sandra Cisneros' *The House on Mango Street: Experiencing Poetical Prose*. *The International TESL Journal*, vol.V, No.10, Oct.1999.

<http://itselj.org/Lessons/Pottleton-MongoStreet.html>

などがある。更に、現役の現代作家らしいサイトとしては、読者が意見交換の場として使うことができる以下のサイトが特徴的だろう。

<http://ja-jp.facebook.com/pages/Sandra-cisneros>

シスネロスがアメリカで広く読まれるようになったのは、彼女の文体が親しみやすく幅広い年齢層に受け入れられやすいことに加え、彼女の作品が教育機関で取り上げられたことも理由の一つだと考えられる。*The House on the Mango Street* は低年齢の生徒の推薦図書となったが、いくつかの大学においては、ヒスパニックの生活や感情を知るためのテキストとしても採用されている。たとえば、ヨセリン・ローマンは、ラテンアメリカの文化やジェンダー問題、宗教問題をシスネロスの作品を通して考える方法を提案し、この試みは、以下のホームページで知ることができる。

Roman, Yoselin. *Survey of Latin ?American Culture Through Literature*.

<http://yale.edu/ynhti/curriculum/units/1997/1/97/01.08.x.html>

教育現場でシスネロスが採用される場合、単に文学研究として作品を読むだけでなく、とりわけ外国人学生のテキストとして使われる際にはエスニシティの問題を考える機会となっていることは注目すべきであろう。シスネロスのようなマイノリティの現代作家を研究する際には、一般読者も巻き込んだウェブ上の情報や教育現場での扱われ方にも注意を向けるのは作家の実像に近づく有効な手段である。

最後にシスネロスについてウェブを通して知ろうとする場合、最も興味深いサイトを挙げると、もちろん、シスネロス自身の以下のホームページがある。

<http://www.sandracisneros.com>

ここには非常に多くの情報が盛り込まれており、項目の一部を挙げると、*bibliography, interviews, photo gallery, scheduled appearances, study guide, contacting Sandra* などがある。作家や作品についての情報を得るだけでなく、最新の作家の声を聞き、今後の予定を知り、さらには作家本人にコンタクトを試みることもできるのが特徴であり、ここには現役の作家研究の新しい形を見ることができだろう。

書籍や雑誌などの資料とウェブ上の情報の大きな違いは、情報の新しさに加え、読者を広く巻き込む視野の広さにある。そして、ウェブは文学研究が英語教育や文化研究と密接に結びついた場である点にあるだろう。シスネロスの作品の特徴は、国籍や文学ジャンルを横断するクロス・オーバーと呼ばれるスタイルを用いることにあるが、ウェブ上で見るシスネロスは、まさにこのスタイルを体現している。

(名城大学)

#### 編集局附記

今回のリレー式研究コラムの担当者は、川口先生からのバトンタッチ指名がとくにない場合は、編集局から真砂先生にお願いすることとなります。

なお、研究コラムでは言語学、教育学領域からの寄稿もお待ちいたしております。宜しくお願ひ申し上げます。

## <研究ノート>

ジョージ・エリオットとアントニー・トロロブ

大野直美

ヴィクトリア朝の同時代に生き、活動の時期もほぼ重なる作家でありながら、エリオット(1819-80)とトロロブ(1815-82)の交流については、これまでほとんど言及されず、あまり知られていないように思われる。これは、主として、トロロブがイギリスではディケンズやブロンテ姉妹と並んで人気があるのに対し、日本においては、知名度が高くないことによるものであろう。また、ふたりの作品の作風の違いにより、比較をされにくい作家であることにもよると思われる。トロロブは没後に刊行された『自伝』(1883)の中で、郵政省に勤務のかたわら、毎朝15分間に250語という一定のスピードで書くという、機械のようにきっちりした創作活動を公開している。これにより、トロロブは研究者たちから芸術性を重んじない、大衆作家と考えられてしまった。また、トロロブの長編小説は当時のイギリス事情を理解していないとわかりにくいという側面もある。このような理由により、トロロブは、日本ではさほど研究の進んでいない、埋もれている作家のひとりと言えるのではないだろうか。長編小説を『パーセットシャー物語』(1855-67)、『パリサー物語』(1864-80)と呼ばれるシリーズものをはじめとして47冊、短編集も5冊残しているのにもかかわらず、翻訳されているのは、短編集の2冊『電信局の娘』(鷹書房弓プレス、2004)、『ピラミッドにきた女』(同、2008)であり、それ以外は、やはり短編の数作品があるのみとなっている。

トロロブについて『自伝』をもとに言及していくと、彼はサッカーを敬愛しており、サッカーから受け取った手紙を『自伝』の中で公開し、喜びをあらわにしているのは興味深い。Honest is best policy を信条としたトロロブの一面があらわれていると言えよう。トロロブはサッカーを同時代の作家の第1位に、エリオットを第2位にあげていることにも言及しておきたい。また、雑誌の編集の仕事で知り合ったジョージ・ヘンリー・ルイスと、ルイスを通じて知り合いになったジョージ・エリオットとの交流も『自伝』からうかがい知ることができる。三人の親密な交際は、トロロブのアドバイスに従って、ルイスの息子の

チャーリーが1860年7月に郵政省の試験を受け、事務員の職を得たことに始まったようであり、その後もルイス宅で何度も食事をともにしたことが、エリオットの『日記』(1998)に書かれている。他人からの厳しい批評に耐えられないエリオットに対して、ルイスは常にエリオットに作品への批判を含む文章に触れさせないようにと気を配ってきた。トロロブもエリオットへの心遣いもあったのだろうか、『ロモラ』(1863)を執筆中のエリオットに、作品を賞賛する次のような手紙を書いている。「1862年6月28日、親愛なるミセス・ルイス 『ロモラ』の第1巻をちょうど読んだところです。あなたにお祝いを述べずにはいられません。もし、最後までこのように続くのであれば、すばらしい作品を作り上げたことになるでしょう。……フローレンスの描写は、……そのエネルギーと正確さにおいて見事です。『ロモラ』の人物は芸術的にすばらしい。……読者の理性をかきたてすぎないでください。多くの読者に対して書かなくてはなりません。千ではなく。私がこうするのは、あなたの目的を変えようとしているからではありません。……あなたが作品の準備をするために耐えたに違いない労力には驚きます。驚き、羨ましく思います。でも、私は決してあなたの成功やきつと届くであろうすばらしい賞賛をうらやんだりしません。たぶん今日、そうでなくても明日の。心をこめて アントニー・トロロブ」この『ロモラ』についての評価は、最も常識的なものであるという見方もされている。手紙を受け取ったエリオットは、1862年6月30日の日記に、「今朝、アントニー・トロロブ氏からロモラについてのうれしい、思いやりのある手紙が届いた」と書いている。

エリオットからトロロブの作品への言及を調べると、1863年10月23日付のトロロブあての手紙がある。そこには、『アリングトンの小さな家』(1864)と『レイチェル・レイ』(1863)についての好意的な文章、「2冊とも感傷的なところはなく、善良さの中の信頼にあふれています。それらは気持ちのよい公園のようであり、そこに人々は楽しむために行き、そう考えても考えていなくても、健康にもなるのです」と記されている。エリオットとトロロブの作家同士のあたたかいやりとりが感じられる。

エリオットとトロロブはこれまで並べて論じられることは少なかったが、ともにヴィクトリア朝



を代表する、遅咲きと言える作家であり、共通点も多くあるように思われる。今後は、ヴィクトリア朝を流れる精神を基盤として比較考察すると、新たな発見があるかもしれない。

(東洋大学)

### <翻訳研究報告>

*A Pair of Blue Eyes* (『蒼い秘めごと』) 翻訳を終えて

朝川真紀

Thomas Hardy 著 *A Pair of Blue Eyes* の翻訳を2003年から、大学の先輩である中村美絵氏と共に始め、2007年8月に近代文芸社より『蒼い秘めごと』というタイトルで出版した。二人の共訳では2003年に、Elizabeth Gaskell 著 *A Dark Night's Work* 『悪夢の一夜』を近代文芸社より出版している。また最初に翻訳を始めたきっかけは、文学博士の山脇百合子先生に Elizabeth Gaskell 著 *Mary Barton* を7人の共訳で翻訳出版するように提案されたことであった(1999年完成)。

今回は初めてハーディの作品に挑戦したが、ハーディの文体は難解であり、また作品の舞台となるコーンウォール地方の方言を読み解くのに大変苦労した。ハーディは建築家でもあったので、作品中に建築関係の専門用語が出てきたり、建物の構造や材料の説明が非常に細かく書かれていたり、さらには、絵画、聖書、ギリシャ・ローマ神話、シェイクスピア、シェリー、ワーズワースなどからの引用、イギリスの地形や地質、古代生物に関する描写、チェスや乗馬のシーンなどもあり、様々な分野の知識が必要であった。また、村の老人が口癖のように発する何気ないせりふに訳をあてはめることができなかつたとき、ハーディの伝記や日記などを調べて、当時コーンウォール地方では人々が魔法を信じ、奇妙な言い伝えや伝説を重んじる風習があったということを知り、言葉の意味をようやく理解した、ということもあった。

下訳から何度も見直しを重ね、誤訳がないか確認し、的確な言い回し・表現になるよう言葉を練り直していったが、途中で一番危機感を覚えたのは、1冊の本として通して読んだとき、勢いが止まっていることに気付いたことである。小説翻訳にとって、文章の流れ、それを止めない勢いは何

よりも大事な要素である。ここでもう一度、一から出直すつもりで作品と向き合った。こうして何とか出来上がった翻訳本であるが、まだまだ未熟な点、不勉強な点がたくさんあるように思う。今回の経験を活かし、次回はさらに良い作品になるよう努力していきたい。

(国際短期大学)

### <教育実践報告>

授業に臨む心構え—現場からの実践報告

水野晶子

私の授業では、何よりもまず、学生たちが間違いを恐れずに学ぶ雰囲気醸し出すことから始まります。学生たちが、のびのびと授業にとりくむための、大切な準備作業なのです。それには、英語の担当者として新入生に行うオリエンテーションの機会を、毎年利用し、以下に掲げる George Bernard Shaw の残した言葉を紹介してきています。

今年は、大教室に1年生300数十名を集めてのオリエンテーションの時に、その言葉を、次のようなクイズ形式で登場させてみました。

“A life spent making mistakes is not only more \_\_\_\_\_ but more \_\_\_\_\_ than a life spent doing nothing.”

「この空所には、形容詞が入ります。さて、どんな形容詞でしょう？」なかなか反応がない場合には、頭文字の“u”を二つ目の空所に入れるつもりでしたが、幸い、ほどなく、“useful”という声が、聞こえてきました。一方、一つ目の空所については、ヒントがなくては難しいと思われましたので、頭文字の“h”を書き入れ、さらに「立派である」、「尊敬に値する」との意味も伝えてみました。それでも反応がなかったので、ヒントとして、“honor”まで板書したところで、“honorable”との囁きが、聞こえてきました！

空所が埋まったところで、あらためて学生たちと意味を確認しました。「間違いをして過ごした人生は、何もしないで終わる人生より、立派であるのみならず、役にも立つ。」と、文の内容を理解できたところで、次に、「どうして立派なのか？」を

皆で考えていきました。「勇気を出して挑戦したことに、すでに価値があるのであり、その挑戦の結果として、間違ってしまったとしても、そこから学びとることができ、役にも立つのである。」と、その意図を引き出していきました。

さらに、“not only ~but (also) …” の構文について、強調されるのは、後に来るほうであることを、学生たちにリマインドしました。即ち、間違ってしまったということは、まず立派なことなのであり、その上さらに、役にも立つ、と言っていることに言及し、間違いをまずポジティブに捉える大前提のもと、学びとることもできるという、言わば2段構えで、間違いについての学生の意識変革を試み、間違いを恐れない態勢へともっていくよう努めました。また、次のオリエンテーションでは、必要に応じて、文中に“also”を加えた形で提示し、そのあと、実際には、“also”の省かれた形が使われている、と言及してもよいと考えています。受験生時代に慣れ親しんだ“not only ~ but also …”の形の中において考えさせるほうが、学生たちにとって、空所補充に全神経を集中しやすいと思われたからです。

このような準備作業を経て、冒頭にも申しましたように、間違いを恐れない、リラックスした雰囲気の中で、授業を行うことを私は目指しております。授業中においては、学生を順番に指名することはあまりせずに、できるだけ、学生からの発言や、朗読等の披露も、自発的に行うよう導くよう努めています。そのせいか、随時行っている発音練習等も、多少大げさなくらいに行いませても、あまり恥ずかしがることなく、大きな声で返ってきているようです。

そのような雰囲気のもと、シラバスに従って、授業を行っていく訳ですが、私の授業は、毎回教科書に添って行うメーンの部分と、英語を楽しむことを意図したプラスアルファの部分とに分けています。大体、前者に授業時間の最初の60～70分程を、後者に残りの20～30分程をあてています。後者のねらいは、英語嫌いの学生には、少しでも嫌いでなくなってもらいたい、そして、英語好きの学生には、もっともっと好きになってもらいたい、の一言に尽きます。クイズやパズル、ジョーク、クリエイティブなタスク等、学生たちが英語を楽しめる時間にするように心がけています。プラスアルファの最後の10分は、毎回洋楽を味わうコーナーとしています。

最後になりますが、もうひとつ学生に強調していることは、もし、英語が苦手ならば、今まで他のことに力を注いできて、英語の勉強の時間が十分とれていなかったに過ぎないことに気づかせることです。「急がば回れ」で、多少時間がかかっても、これから英語の基礎に立ち戻って、自分の弱点を把握し、そこをひとつずつ固めていけばいいのだと、励ますことで、苦手意識という呪縛から解放し、あとは学生たちを「好きこそものの上手なれ」の好循環へと、はめようと日々努めております次第です。

(拓殖大学)

<教育研究ノート>

英語学習に適した「コンピュータゲーム」  
——作品紹介

熊沢和明

はじめに

筆者は、ここ数年、英語版「パソコンゲーム」を利用した英語教育の準備に没頭してきたが、英語学習に適した「ゲーム」をまとめて紹介してくれるようにと学生たちからの要求があった。

作品個々の本格的なゲーム批評は相当な紙面が必要と思われるので、ここでは、筆者が実際に体験して、学生に語学学習、実技の両面で指導できるものの中で、わりと語学学習に役立つと思われる「ゲーム」を幾つか紹介する。タイトル、ジャンル、入力操作法、物語内容、言語ファイル、語学学習法その他の順で適度な解説を試みる。

作品解説

*Syberia II (Adventure)*

入力はマウス操作のみによる三人称視点のポイント&クリック方式である。したがって「コンピュータゲーム」の初心者でも安心してはじめられる。

前作でNYの女弁護士Kate Walker(PC)はValadileneという南アルプスにある町の素晴らしいおもちゃ(カラクリ人形)工場に仕事で赴き、そこから工場の相続人を探して世界中を旅することになる。本作はその続きで、老人Hansの夢の実現を手伝い、シベリアの最果てにあるという、「青々とした草原にマンモスが生き残っている」という幻の島を探す旅。

中学英語相当の学力で十分についていける語学レベルである。簡単な会話を聞き取ったり、読

み取ったりしながら、ポイント&クリックでゆっくり考えながらストーリーラインを進むことができる。夢のようにエキゾチックなCGの世界を旅し、異文化体験をすることができる。

### *Silent Hill 2* (Horror Action Adventure)

入力はゲームパッド、主人公(PC)の動作にtime lagの仕掛けがあり、相当な操作技能を要求するが、語学学習が目的ならゲーム難度レベルを低く設定すれば問題はない。

「罪と罰」をテーマにしたような作品内容で、芸術と呼んでいいほどの質の高さが驚きである。また物悲しい音楽と深層心理が生み出す怪しげな化け物の造形美が印象的である。

James Sanderlandのもとに3年前に病で死んだ妻から手紙が来る。「サイレントヒルの思い出の場所で待っている」彼は、深層意識の悪夢(トラウマ)が現実となって出現するかのような、あの「霧の町」を妻の手がかりを捜し求めながらさまよい、消去した記憶を取り戻すことになる。

語学的には極めて簡単である。しかしいくつかあるエンディングのどれに到達したとしても、最後の妻からの手紙を読んで、初めて英語を読み聞きして泣いた、という貴重な経験ができるように思う。

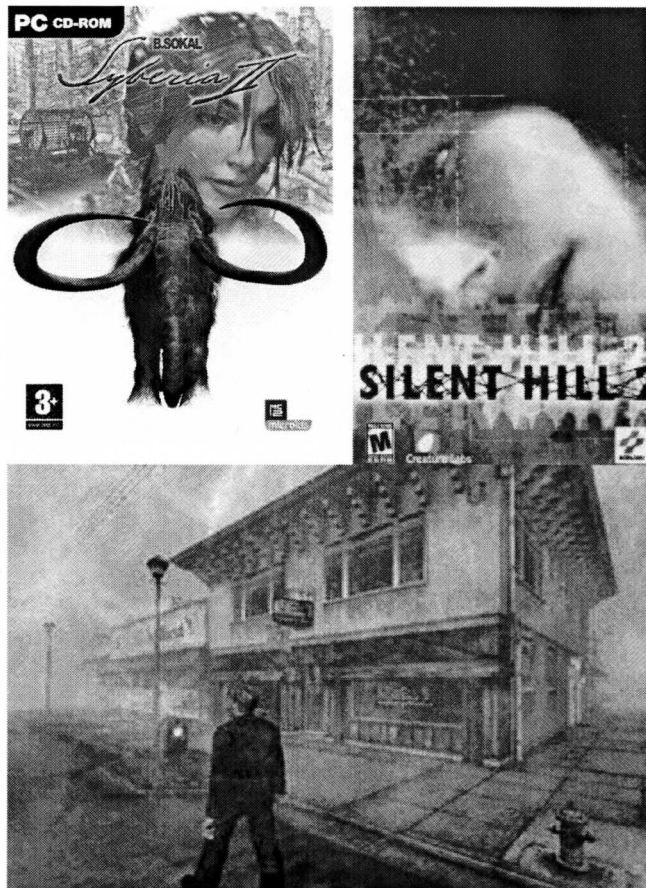
極めて難度が高い「謎」が出てくるので、ネット上のwalkthroughなどを読めば相当な読解の勉強になる。

### *Metal Gear Solid 3: Snake Eater* (Action)

ゲームパッド入力、複雑な入力コマンド。アメリカ政府の潜入工作エージェント、本名不明のジャックが冷戦後のソビエトが密かに開発した移動式大陸間弾道弾発射装置シャゴポッドを破壊し、開発者の亡命を助けるストーリー。極めて独特な歴史観とヒロイズムを持つゲームである。また任務を遂行する上で、殺人を行わない「ノーキル」を推奨する倫理的側面を持つゲームである。最愛の人を殺す任務になるという悲劇的なストーリー展開にもかかわらず、ダンボール箱に隠れるなどコミカルな要素もあわせもつ。語学的にはとくに映画場面の聞き取りは難度が高い。

### *Resident Evil 4/5* (Horror Action Adventure)

内容は、前回のNewsletterで紹介したので省略する。語学的には高校2年生程度の英語力で十分についていける。ゲーム内ファイル参照システムが素晴らしいので、このジャンルとしては意外なことに語学学習用に向いている。読み取り、聞き



霧の町サイレント・ヒル

「妻からの手紙」

In my restless dreams,  
I see that town.  
Silent Hill.

You promised you'd take me  
there again someday.  
But you never did.  
Well I'm alone there now...  
In our 'special place'  
Waiting for you...

.....

I can't tell you to remember me,  
but I can't bear for you to  
forget me.

These last few years since I  
became ill...I'm so sorry for  
what I did to you, did to us...  
You've given me so much and  
I haven't been able to return  
a single thing.

That's why I want you to live  
for yourself now.

Do what's best for you, James.  
James...

You made me happy.

取りともに教材として十分に使えるが、英語版のガイドブックが市販されているので読解の教材にも使える。5は高度な映画技法を採用している。

**Secret Files:Tunguska (Adventure)**

マウス入力、主人公Ninaとなって、失踪した父親を探す推理ゲーム。ポイント&クリックで英語で推理しながらツングースカ大爆発事故の謎に迫る。

語学的推理力の訓練にもなるので、わざと辞書などを引かずに、いきなり美しい3DCGの仮想空間に飛び込むことをお勧めする。

**Fahrenheit/ Indigo Prophecy (Adventure)**

ゲームパッド入力、NYを舞台に、何かに憑依され殺人事件を犯した主人公 Lucas Kane とそれを追う刑事たちになり、謎の連続殺人事件の真相に迫る。

プレイヤーは意識がないまま食堂のトイレで見知らぬ人を刺し殺し、店の中にいる警官に見つからないうちに死体を処理し脱出しなければならない。映画受容では到達不可能な仮想体験。

英語による、行動と直結した言語体験を可能にしてくれるゲームシステムで、すくなくとも、型にはまった語学教育とは別次元の言語体験ができる。

**Lost:Via Domas (Adventure)**

ゲームパッド入力、アメリカの大ヒットTVドラマをゲーム化したものである。主人公の、航空事故により記憶をなくしたカメラマンが、回想場面でシャッターを切ることにより記憶を取り戻すという設定に作り変えられている。

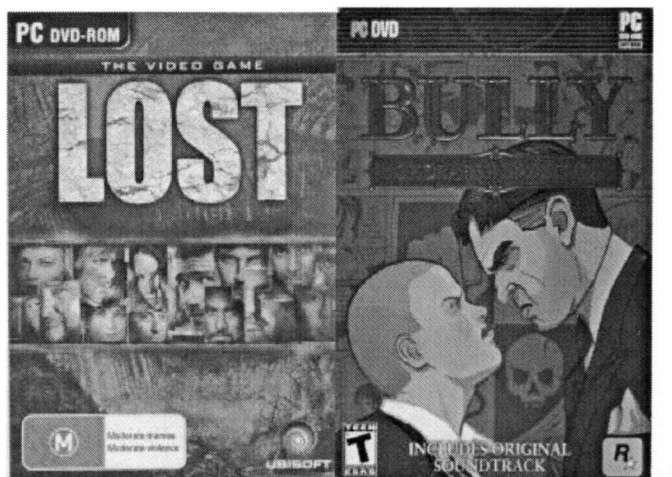
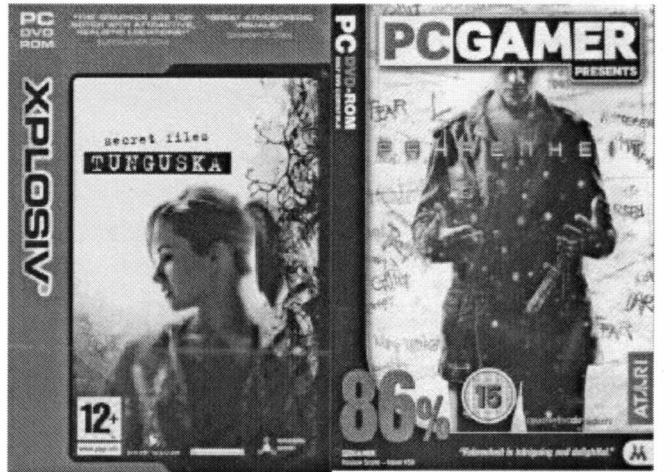
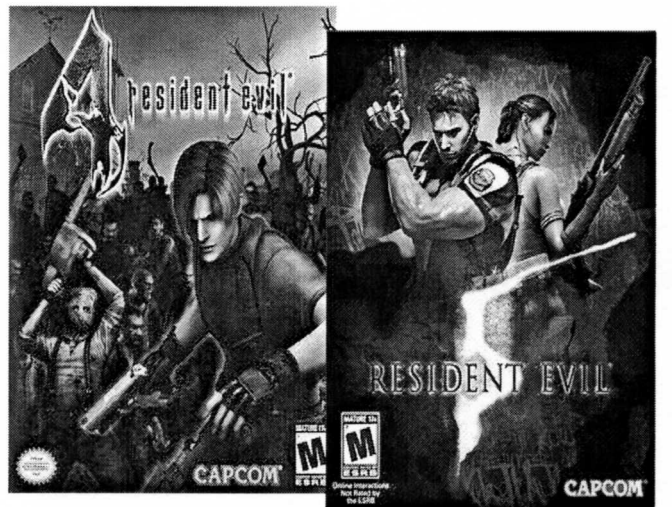
遭難者たちと英語で会話をしながら記憶の回復を図るという稀有な体験をすることができる。語学的には高校生上級。

**Bully (Action)**

ゲームパッド入力、アメリカの悪ガキの学園生活がたっぷり体験できる。映画場面のいきのいい会話は、かなり難度の高い学習教材となる。入力操作の英語解説や入力指示の反射的な反応も英語学習に役立つ要素である。言語と行動が即応した反応反復学習としては英語キーボード速射入力と同様の学習効果が期待できる。

**Grand Theft Auto (Action)**

ゲームパッド対応、身内を頼ってアメリカにやってきた主人公の、自由度抜群の暗黒街ゲーム。リバティシティ (NY) の生活体験やリアルな異文化体験には適した素材。テレビも見れるし、電車





や車にも乗れる。三人称視点だが感情移入ができる。アメリカの知識階級に人気のゲームらしい。

語学的には、俗語、卑語のオンパレードでかならずしも立派な英語表現とはいえないがリアルな言語現象として体験しておきたい。

### *Fallout 3* (RPG)

ゲームパッド入力、核戦争崩壊後のアメリカを舞台に、シェルターの中で育った主人公が失踪した父親を探して外の廃墟となった世界を旅する。

プレイヤーは、誕生に際して自分の人種、容姿、性別を決定するところからはじめる。誕生から、少年時代、青年時代と英語文化のなかで成長過程を体験し、文明の廃墟の中をさまよい、懐かしい1950年代のアメリカ文化を偲び、象徴性に富んだモニュメントの廃墟を彷徨いながら、極めて意味深い比喩に富んだ冒険の旅をし、自由度の高い人生を生きることができる。語学的には上級会話。

### *Mass Effect* (RPG)

*Fallout 3*と同様にRPGだが、舞台は宇宙に設定され、プレイヤーは宇宙の保安を司る任務に就くことになる。

選択肢による会話システムが英語会話学習には適している。会話内容、表現ともに上級英語の範疇に入る。会話英語表現の微妙な陰影が味わえる。

### *Sherlock Holmes: The Awakened* (Adventure)

一人称視点のポイント&クリック方式。ヴィクトリア朝のイギリス英語で、絵画のように美しいCGの世界を、英語で推理、謎解き行動をすることができる。

### *Pathologic* (Adventure)

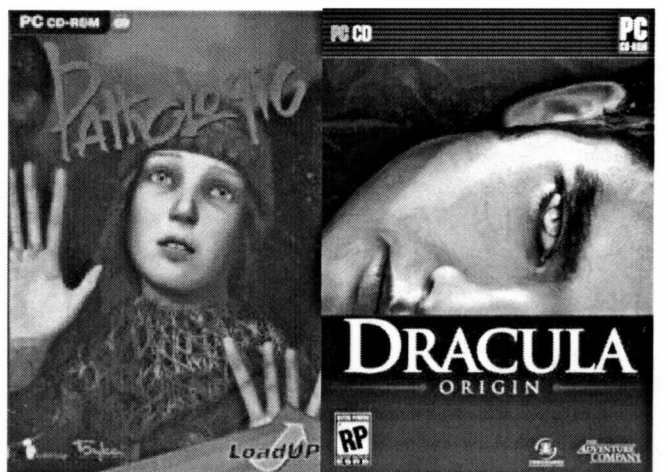
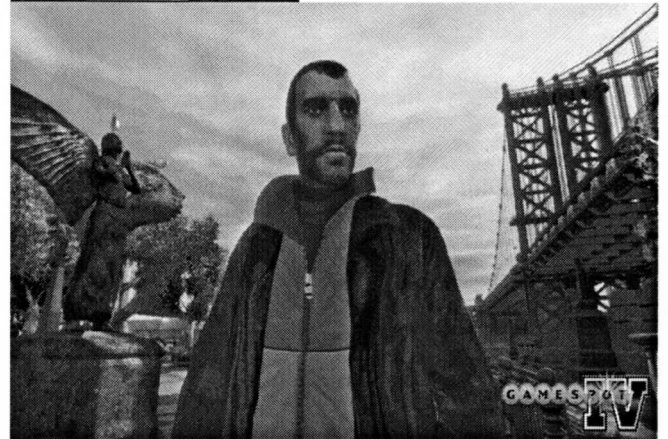
マウス入力、ポイント&クリック方式。謎の儀式的殺人事件を推理する。まるでシュールレアリズムの絵画のような無限に広がる幻想的な空間を、徒歩で歩きながら事件の様々な関係者から情報を集め、謎解きしてゆく。

音声のない会話を黙々とやり取りし、読み進んでいく、いっふう変わった方式である。かなり上級の口語英語能力が必要である。

### *Dracula: Origin* (Adventure)

マウス入力、原作は有名なので物語内容の解説は省略する。ホラーではなく推理ものになっている。プレイヤーはヴァン・ヘルシング。

全体に艶やかな耽美的絵づくりをしていて、ヴィクトリア朝のイギリスを絵画調に描き出している。落ち着いた重厚な雰囲気の中で、イギリス英語をたっぷりと味わうことができる。推理もの





だけに、口語英語で内的独白調の英語を堪能することができる。

### *The Sims 2,3* (simulation)

マウス入力、アメリカの生活や人生設計を楽しくシミュレートできる人気の高いゲームである。異文化社会の体験と生活感覚あふれた語学学習ができる。電子辞書などを手元においてやるには格好のゲーム。

### *S.T.A.L.K.E.R.: The Shadow of Chernobyl* (shooting)

キーボード&マウス入力。複雑高度なAI (artificial intelligence) システム—A-Lifeシステムを採用した高度なコンピュータゲームである。大まかなストーリーラインはあるが自由度もかなり高い。プレイヤーの人生観と選択によって、複数のエンディングが用意され、good ending に辿り着くには相当な試練がある。チェルノブイリ原発事故跡にできた不可思議な空間 (zone) を舞台に、記憶をなくした男が自分自身を捜し求めながら「ゾーン」の秘密を探り出すという筋立てである。

会話はロシア訛りの強い英語である。NPC同士はロシア語で話すが、プレイヤー (PC) は英語で会話しながら、仕事を請け負ったり、報酬を受け取ったりして生き延びていかなければならない。上級の聞き取り、読み取り能力が必要である。英語字幕が付かないときもある。

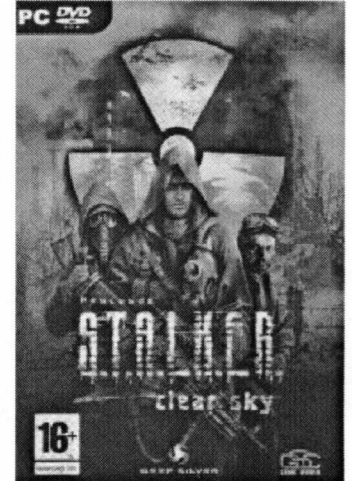
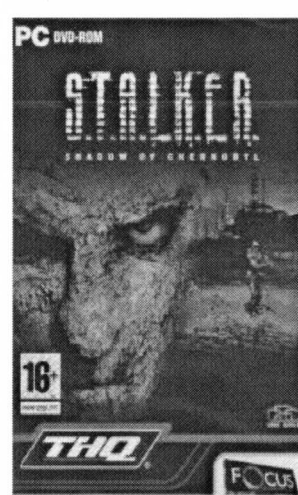
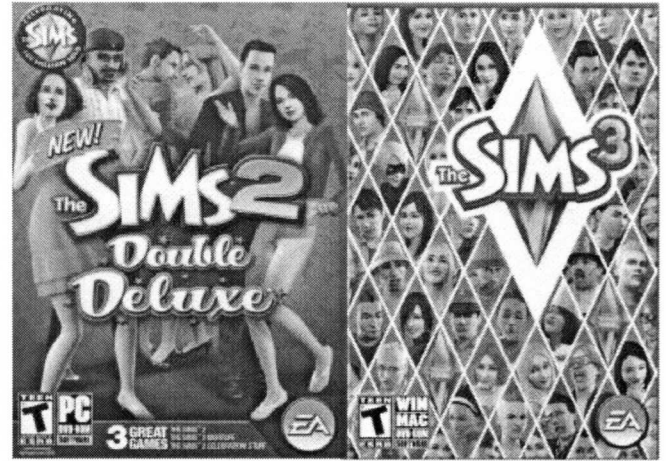
NPCは本当のことを話すとは限らないので、単に語学的知識を超えた、判断能力を試される場合もある。迂闊に信じるとひどい目に合うこともけっこうある。

世界中のマニアが高度なMODを製作しているので、導入することをお薦めする。言語的な面でもかなりの変更がなされている。導入に際しては、FrontPage *S.T.A.L.K.E.R.:Shadow of Chernobyl* Wikiを参照。推薦MODs:Priboi Story, Special Free Play MOD, Arsenal Mod, STALKER MaxFu MOD Pack, Faiakes Mod

おわりに

以上は、筆者が学生に薦められるゲームのうちの、ほんの一握りのゲームに過ぎない。ただし、どちらかと言えば、英語学習に適したゲームを薦めるよりも、学生が興味をもったゲームを利用して、英語を勉強するやり方を指導することの方がより適切な教育法なのかもしれない。

(拓殖大学)



good ending

I don't know whether I was right or wrong. I guess I'll never know. But I made it. And I guess I should be thankful for that.

<学会報告>

日本英語文化学会第114・113・112回月例会報告  
昭和女子大学 岸山 睦

第114・113・112回の月例会の研究発表が下記のように行われました。研究発表は英米文学、比較文学、英語教育でした。若い大学院の学生からベテランの研究者まで層の厚い発表者が、フロアーの研究者と熱心な議論を展開しました。

第114回 2009年6月13日(土)午後4時00分  
～6時20分 駒澤大学 246会館7階会議室

(1) Caroson McCullersの *Clock Without Hands*  
——境界領域にいる不安定さ

日本工業大学(非) 廣田純子  
司会 名古屋市立大学 新井 透

(2) Course Management System(CMS) Integration

駒澤大学 Kristie Sage  
司会 昭和女子大学 岸山 睦

第113回 2009年3月14日(土)午後4時00分  
～6時20分 駒澤大学 246会館7階会議室

(1) *Cousin Phillis*: 変革する女性の運命

国際短期大学 朝川真紀  
司会 東洋大学(非) 大野直美

(2) アイラ・オールドリッジ『黒人の医師』における報われぬ恋の表象——シェイクスピア的視点を交えて

日本大学 福島 昇  
司会 山村学園短期大学 宮本正和

第112回 2008年12月13日(土)午後4時00分  
～6時20分 駒澤大学 246会館7階会議室

(1) キャリバンの変遷を辿る——『もうひとつのテンペスト』における脱植民地化

日本大学(大学院) 藤木智子  
司会 山村学園短期大学 宮本正和

(2) 文学と災害の親和性を考える——18世紀イギリス小説を題材として

駒澤大学 白鳥義博  
司会 大正大学 高山信雄

日本英語文化学会 第11回全国大会報告

同大会運営委員長 中井延美(明海大学)

平成20年9月13日、明海大学浦安キャンパスにおいて、第11回全国大会が開催された。当日は40名以上の会員が参加し、充実した大会となった。海風渡る浦安の街、そして明海大学に初めてお越しになったという方も少なくなかった。たまたまではあるが、同大会は、発表者4名が全員女性(ついでに委員長も女性)だった点が特徴的であったといえるかもしれない。研究発表では、ワーズワース、キプリング、ライティング指導、トウエイン論に関するテーマが取り上げられた。キャンパス内のレストランでの懇親会にも40名近くが参加し、にぎやかに親睦を深めた。同大会に参加してくださった方々、発表者の方々、そして、同大会の準備・実施を支えてくださったすべての方々に、この場を借りて心より御礼申し上げたい。

第11回全国大会プログラム

日時 平成20年9月13日(土)

会場 明海大学 浦安キャンパス

研究発表

(1) スコットランド旅行(1803)におけるワーズワースの詩的想像力——ドロシー・ワーズワース『旅行記』との比較から

龍谷大学大学院研究生 浅井三津恵  
司会 法政大学(非) 山岸二郎

(2) キプリングとフランス——“The Bull that Thought”を中心に

北星学園大学 上石実加子  
司会 国際短期大学 朝川真紀

(3) Deciphering Students' Essays in an Effort to Get a Clue to Successful Academic Writing in English as a Foreign Language

明海大学 小野雅子  
司会 明海大学 中井延美

(4) ゴールドのマーク・トウエイン論

立正大学 柿沼孝子  
司会 立正大学 小沢奈美恵

## 新入会員

- 遠藤琴美 (日本大学大学院、比較文学、Jan Svankmajer)  
落合真裕 (駒澤大学、英文学、Terence Rattigan)  
榊 哲 (明海大学 (非)、英語教育、言語学)  
ジナング、マイケル (日本大学、英語・英米文学、文学一般、(含文学論・比較文学)・西洋古典)  
白鳥義博 (駒澤大学、18世紀英文学、Fielding)  
セイジ、クリスティー・J (駒澤大学、Communicative Testing)  
角田裕子 (日本大学大学院、英文学、Charles Dickens)  
長島万里世 (日本大学大学院、アメリカ文学、Louisa May Alcott)  
野村宗央 (日本大学大学院、英文学、John Milton)  
原 隆幸 (明海大学、応用言語学)

## 編集後記

日本英語文化学会会報編集長

福島 昇

ここ1年で、10名の新人が入会しました。これほどたくさんの会員が入会したのは過去に例がないと思います。

昨年、晴れて学会が「日本学術会議協力学術研究団体」に認可されたせいかもしれません。学会の責任は今後ますます重くなると思われます。これまで以上に会員同士、切磋琢磨しながら学会を発展させていきたいと思ひます。

編集にあたっては、今年も熊沢氏に大変お骨折りをいただきました。

## 投稿規程

〈研究ノート〉 和文 2000 字、欧文 800 語以内  
〈書評〉 和文 2000 字、欧文 800 語以内  
〈その他〉 和文 2000 字、欧文 800 語以内  
応募先： 日本英語文化学会会報編集部編集長  
<noboru@cit.nihon-u.ac.jp>

応募方法：メール (WORD 形式の添付ファイル)  
掲載の採否については編集部にご一任いただきます。

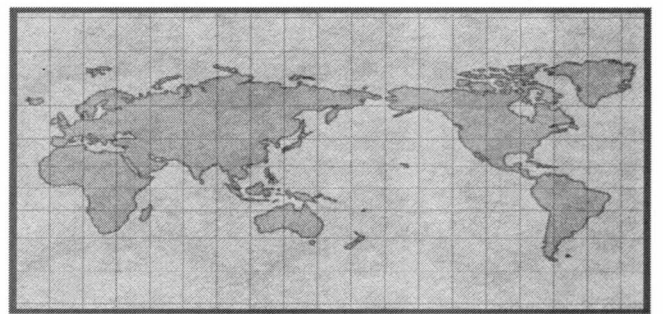
## 掲示板

日本英語文化学会 Newsletter は文学文化、語学、教育の各専門分野から幅広く投稿を求めています。

投稿原稿の用紙サイズ設定、行数文字数などページ設定に関しましては、A4用紙WORD標準設定をお願いいたします。コラム等のレイアウトは編集部にご一任くださいませ。

WORDのリンク機能を利用した注釈はテキストファイルの取り込みに手間どりますので、なるべくご遠慮くださいませ。

Newsletterは全国大会配布版をもって、最終版といたします。増刷希望の寄稿者はお申し付けくださいませ。



2009年6月16日発行

編集 日本英語文化学会  
編集部 熊沢和明、福島 昇、  
松山博樹  
発行人 田中 保  
発行所 東京都世田谷区駒沢 1-23-1  
日本英語文化学会

<<http://www7a.biglobe.ne.jp/~jsce/index.html>>

**The Japan Society for Culture in English**

**日本英語文化学会会報**